

(お知らせ)

定期検査中の柏崎刈羽原子力発電所 6号機における  
原子炉自動スクラム警報の発生について

平成 16 年 8 月 13 日  
東京電力株式会社  
柏崎刈羽原子力発電所

当所 6号機(改良型沸騰水型、定格出力 135 万 6 千キロワット)は、平成 16 年 7 月 10 日から第 6 回定期検査を実施しておりますが、昨日、安全保護系設定値確認検査<sup>\*1</sup>において、スクラム設定値の確認を行っていたところ、午後 5 時 14 分頃、「原子炉自動スクラム<sup>\*2</sup>」の警報が発生いたしました。

原因を調査したところ、同検査の準備段階において検査関係者間の連絡不十分により、原子炉スクラムに至らないような処置を講じる前に、模擬信号を入力させてしまったためと分かりました。

現在、定期検査で全ての燃料を原子炉から取り出しており、また、スクラム警報が発生しただけで、実際のスクラム動作はありませんでした。

これによる外部への放射能の影響はなく、安全上の問題もありません。

以 上

\* 1 安全保護系設定値確認検査

制御棒緊急挿入、工学的安全施設の始動、非常用ディーゼル発電機の始動、格納容器隔離等の安全保護系設備の始動に必要な圧力、水位、温度等を各検出要素に模擬信号を入力して動作値を確認する検査です。

\* 2 原子炉自動スクラム

安全保護系のうち原子炉保護系回路は、4つの回路で構成され、2つ以上の回路が同時に動作すると原子炉が自動スクラムします。今回の場合、当該回路のうち1つの回路のみが動作したものです。